

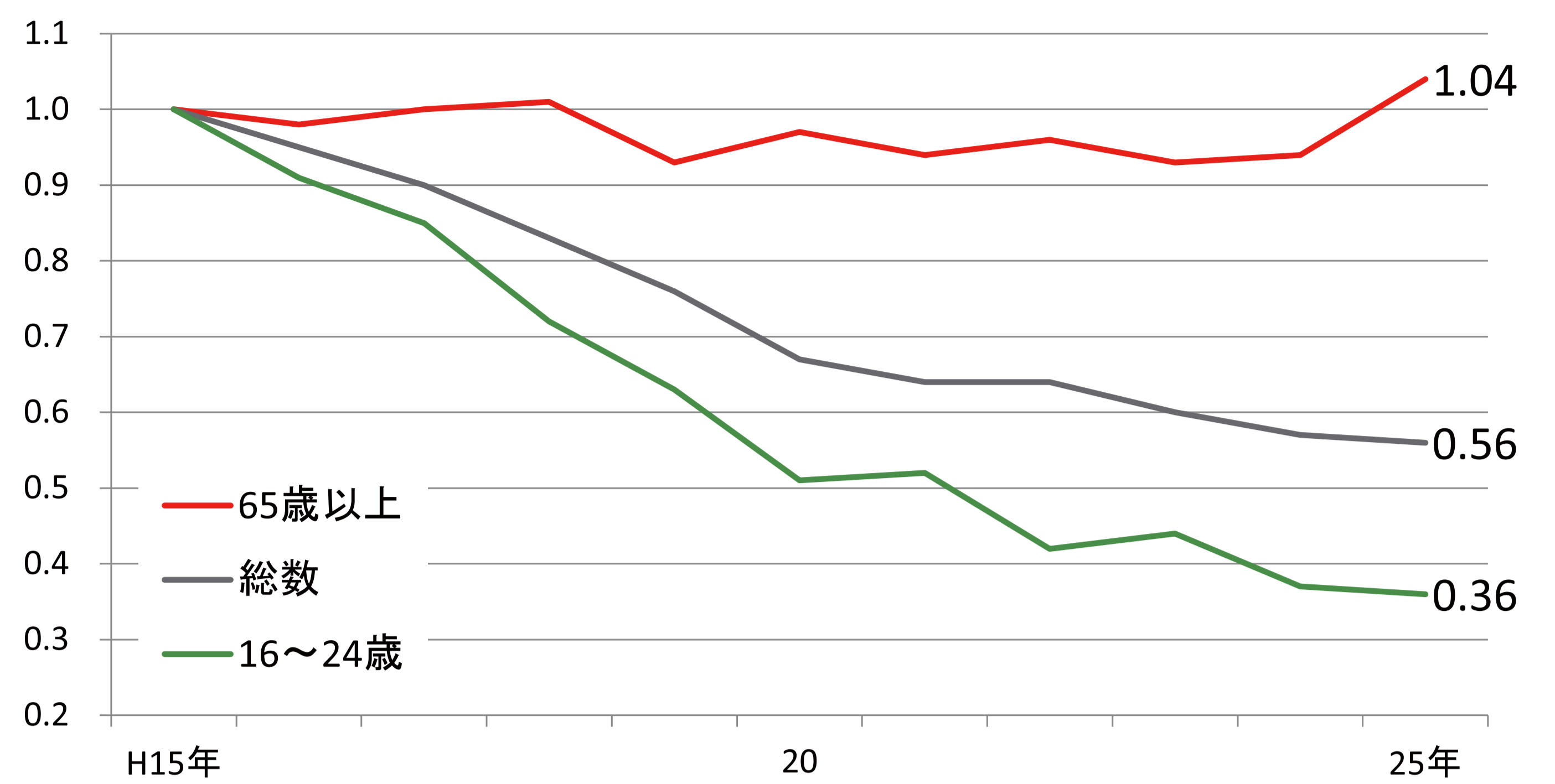
自動車運転免許返納に対する高齢者世帯のジレンマ

～納得のゆくモビリティ環境を求めて～

福井のり子・森山昌幸（株式会社バイタルリード）、カ石真・藤原章正（広島大学大学院国際協力研究科）、塩飽邦憲（島根大学医学部）、山本昌弘（どらいぶケア）

1 背景・目的

加齢によって運転能力が低下した高齢ドライバーに対し、運転免許証の返納を適切に促すことが社会的な課題となっている。高齢者の運転とリヤメにおいては、公共交通サービス等の改善など政策的な支援とともに身近に暮らす家族も重要な役割を果たすとされており、**高齢者とその家族がともに納得のいく移動環境の提供や情報の提供**が必要である。本プロジェクトでは、**高齢者世帯のジレンマ**を解消するため、高齢ドライバーと家族とのコミュニケーションも想定した高齢者の自動車運転免許返納を支援するシステムの開発を試みるとともに、高齢者の家族を対象にした調査から、高齢者の運転に対する不安の実態やシステムのニーズについて検証を行うことを目的とする。



▲自動車(第1当事者)運転者の若者・高齢者別死亡事故発生件数の推移
注1 警視庁資料による(内閣府)/注2 平成15年を1とした指数

2 高齢者の自動車運転免許返納支援システムの開発

検査官の同乗による路上での運転能力診断の後、運転危険箇所の確認と公共交通の利用などの動機づけを行う。さらに、診断結果と動機づけ内容は、高齢者の家族とも共有できるツールとすることで、家族間でのコミュニケーションを促進するシステムを開発する。

診断と意識啓発の流れ

①事前診断

- ・簡易認知機能検査アプリを使用した診断

②検査官の同乗による路上での運転診断

- ・ドライブレコーダー等による走行データの計測
- ・同乗した検査官による危険箇所の記録

③運転の振り返りと意識啓発

- ・動画や走行データの確認による運転の振り返り
- ・動機づけ情報の提示

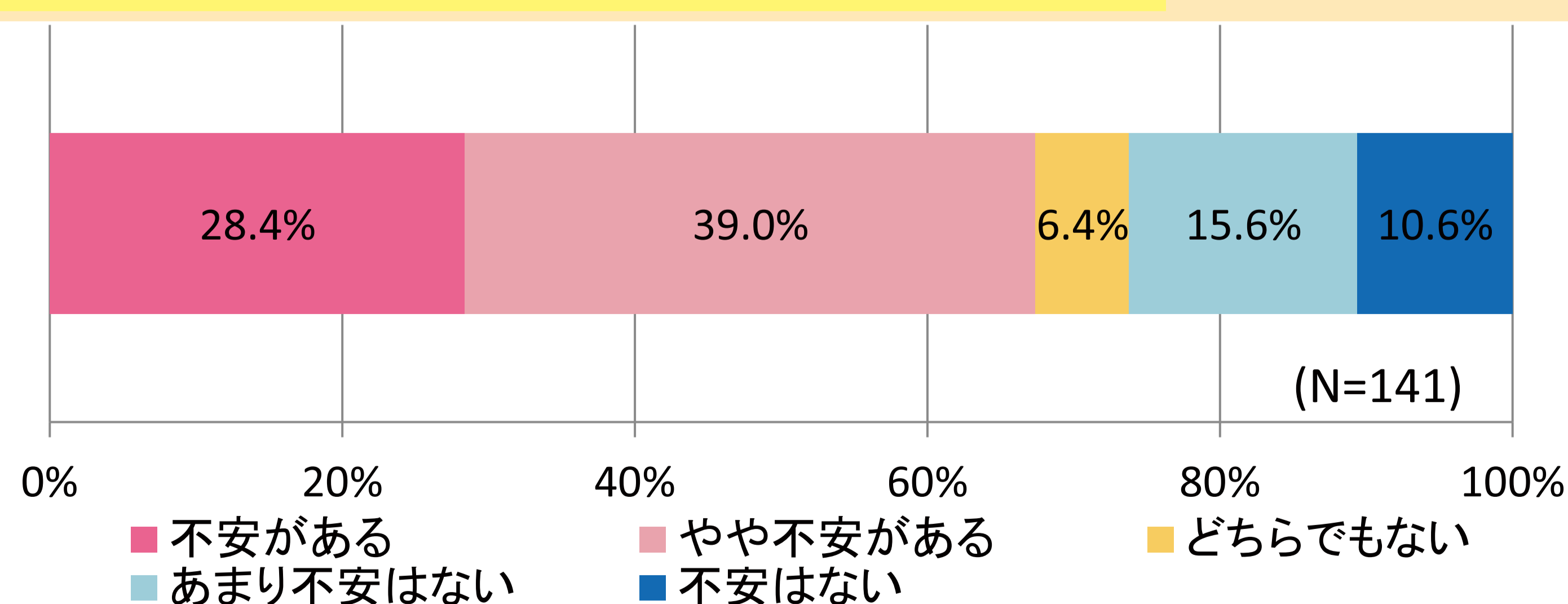
▼運転の振り返り



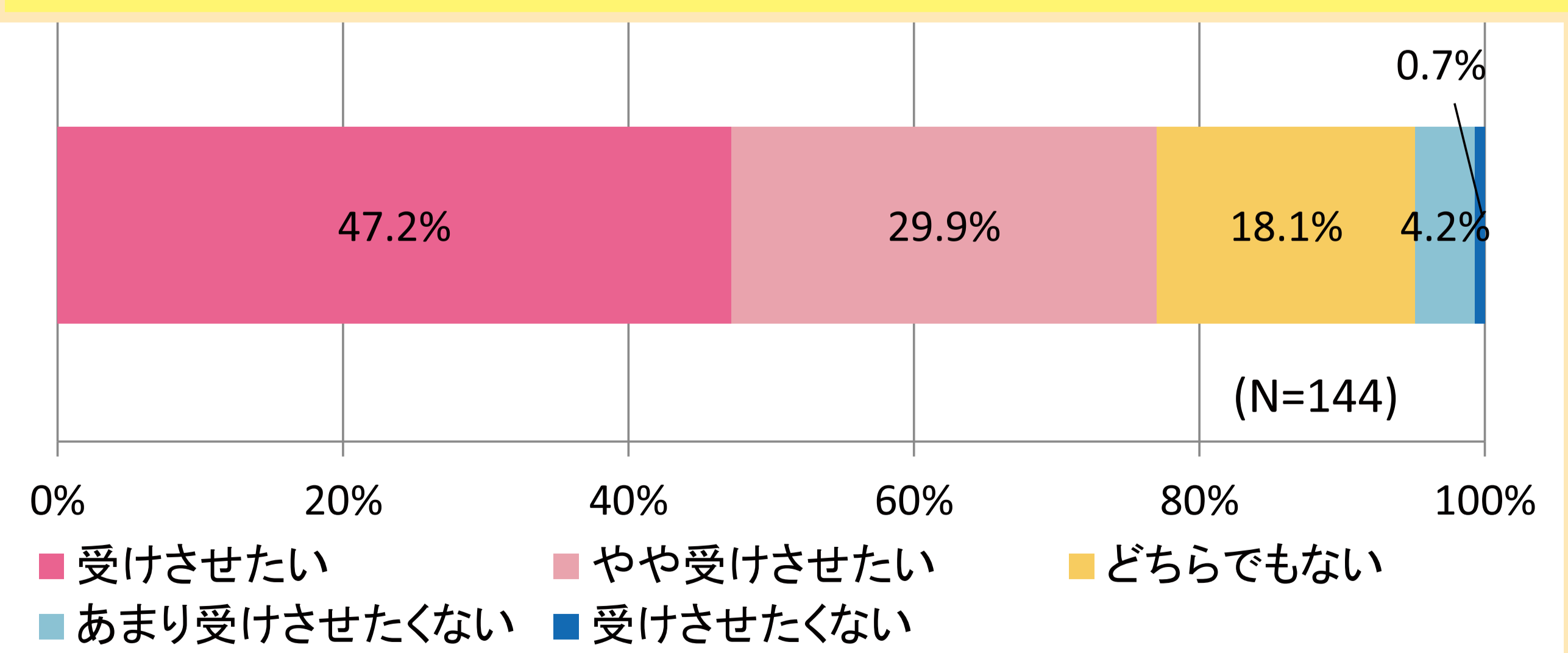
3 高齢ドライバーの家族を対象にしたアンケート調査

調査期間	平成7年11月～平成28年2月	調査内容 ・回答者の個人属性(年齢・性別) ・回答者の家族(高齢ドライバー)の個人属性 ・高齢ドライバーの運転状況(運転歴、事故歴、運転車両、運転頻度等) ・高齢ドライバーの運転に対する不安 ・システム(サービス)の利用意向
調査対象	高齢ドライバーを家族にもつ方	
調査方法	インターネットと調査票により実施(調査票は島根県雲南市役所に設置しその場で配布・回収)	
回収票	146	

問: 高齢者の方(家族)の運転に不安はありますか。



問: 高齢者(家族)にこのようなサービスを定期的に受けさせたいですか。



高齢ドライバーの家族を対象にしたアンケート調査からは、夜間や悪天候時の運転や判断力、急な体調の変化などの理由で、高齢ドライバーの運転に対して家族が不安を感じている実態が明らかとなった。